

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復の動きに一服感がみられる。

- ・ 鉱工業生産はこのところ緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

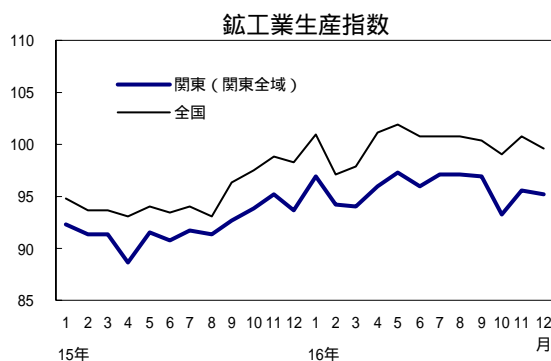
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 11 月)	今回 (平成 17 年 2 月)	
景況判断	緩やかに回復している	回復の動きに一服感がみられる	
鉱工業生産	緩やかに増加	このところ緩やかに減少	
住宅建設	大幅に増加	増加	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産はこのところ緩やかに減少している。(関東全域)

一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置に一服感がみられ、6 四半期ぶりに減少に転じた。化学は、中国向けを中心とするアジア需要は依然として活発であるが、定期改修が行われた影響もあり、減少している。輸送機械は、自動車は北米向けの輸出にやや落ち着きが見られ減少したものの、鋼船が法改正による駆け込み需要で 12 月に大きく伸びたため、全体としては増加となった。情報通信機械は、携帯電話が低調に推移しており、加えて新機種の発売が一部延期されて端境期となったことから、減少している。電気機械は、セパレート型エアコンが前期の反動で減少したこと、半導体・IC 測定器が引き続き減少したことから、2 期連続の減少となった。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成16年12月の関東は速報値。

##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

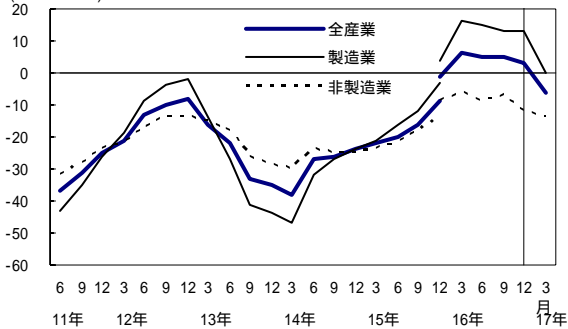
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	13.8	5.3	6.0	2.3	5.8
化学	13.7	2.2	6.0	4.8	2.8
輸送機械	11.3	1.0	4.0	0.2	6.1
情報通信機械	8.6	0.1	2.2	1.4	5.7
電気機械	7.9	2.4	1.9	0.8	5.5
鉱工業	100.0	0.6	2.5	1.7	1.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10~12月期は速報値。  
3. 10~12月期の化学の生産、出荷については、10月、11月確報値の平均より算出。在庫については、11月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

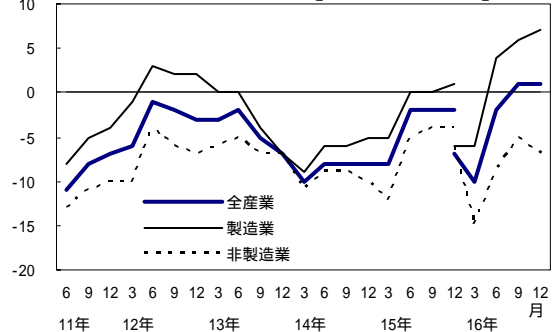
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



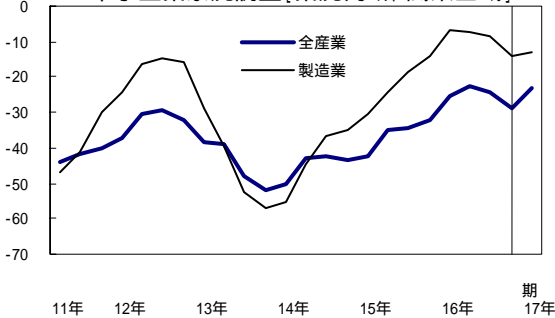
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「自動車、携帯関連企業は安定した生産、利益を出しているが、下請の零細企業は親会社の都合に振り回され、いまだに非常に厳しい状況が続いている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

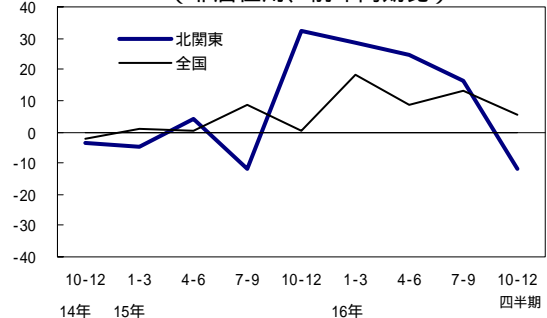
企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	15年度実績	16年度計画
全産業	4.9	23.7 ( 2.9)
製造業	9.0	29.1 ( 6.1)
非製造業	1.7	14.1 ( 4.4)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。  
調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積

(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

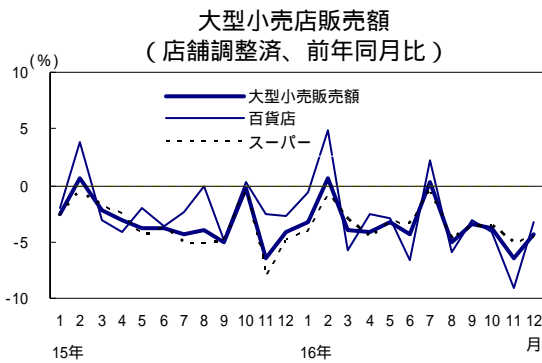
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、台風等の天候不順の影響による来客数の減少もあり、衣料品を中心に不振となり、前年を下回った。11月は、暖冬により婦人服・紳士服ともに冬物が振るわず、衣料品が大幅減となったことから、全体でも大きく前年を下回った。12月は、身の回り品に動きがみられたものの、引き続き暖冬の影響により、冬物衣料が低調だったことから、全体としては5か月連続で前年を下回った。

スーパーは、10月に飲食料品で動きがみられたものの、台風や暖冬の影響により、期を通じて衣料品が低調に推移し、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

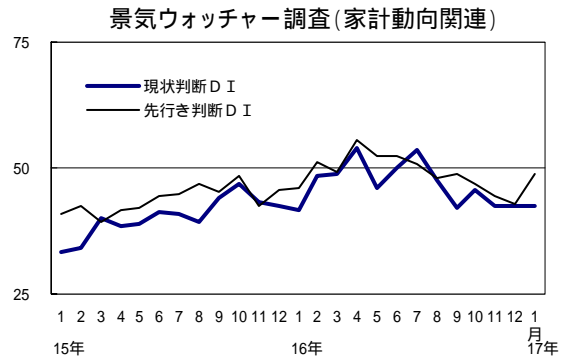
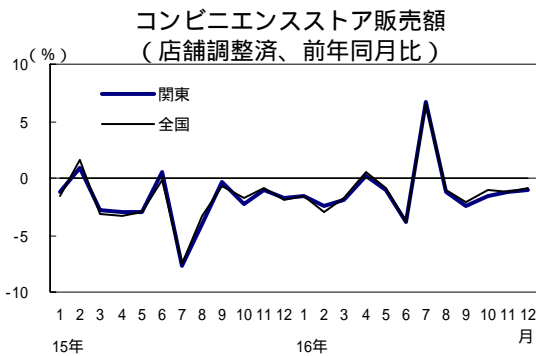
「雪の影響で月の前半は前年を下回ったが、寒くなるにつれ冬物処分が順調である。天候に左右され、消費に力強さが感じられない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.9	3.9	2.7	4.8
百貨店	1.0	4.0	1.9	5.3
スーパー	2.8	3.8	3.0	4.6
コンビニ	1.9	1.6	1.0	1.3
景気ウォッチャー	46.3	49.9	47.7	43.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。16年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。

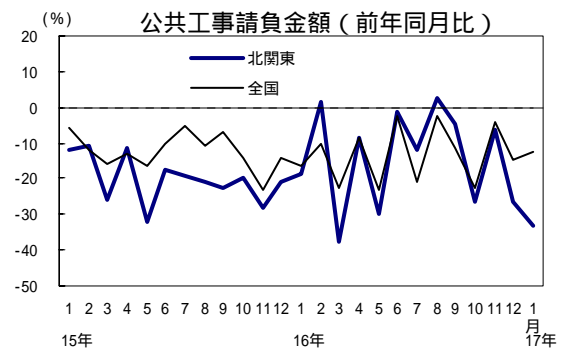
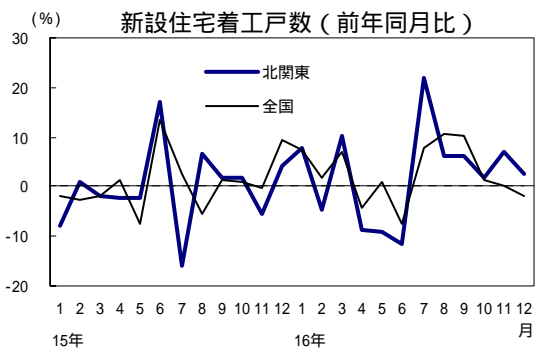
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家を中心に前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

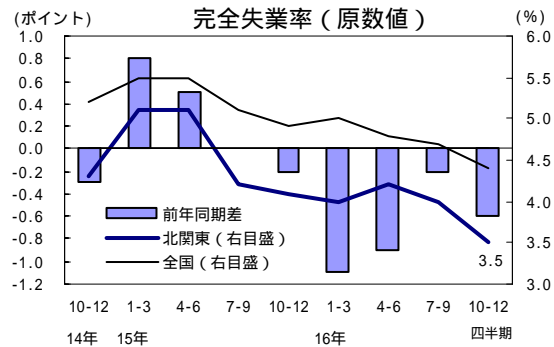
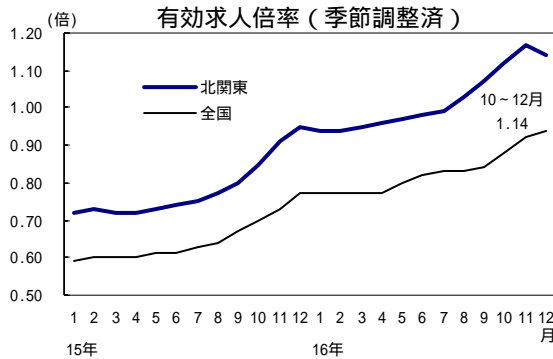


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

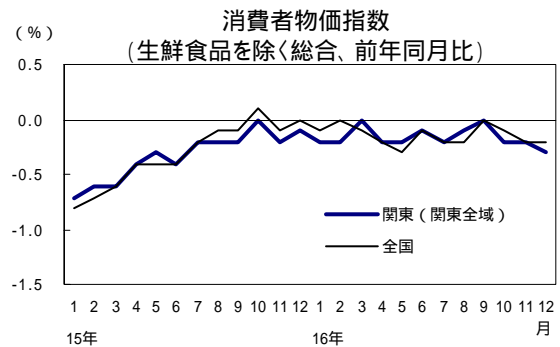
「IT関連製造業からの派遣オーダーがぼつぼつ戻ってきているが、2～3月から稼働し、6月辺りを一区切りとしており、長期的な景気を持ち直しとはいえない(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	17年1月
倒産件数	176	156	140	156	55
(前年比)	23.8	38.6	17.6	9.3	5.8
負債総額	1,443	1,581	611	967	414
(前年比)	86.3	27.4	25.4	41.4	41.7



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・地域によって格差があり、市街地から離れるとまだ価格が下がっているところもあるが、全体としては落ち着いてきている。成約はいまだに現金決済が多く、一般需要は鈍い(住宅販売会社)

<先行き>

・年度末に向け、市内中心部に北関東最大規模となる大型書店や、JR駅に総合家電量販店など約80店舗の専門店が構成された都心型商業施設がオープンする予定である。一方、AV機器工場の大規模な人員削減などもあり、全体としては変わらない(職業安定所)

景気ウォッチャー調査 (合計)

